

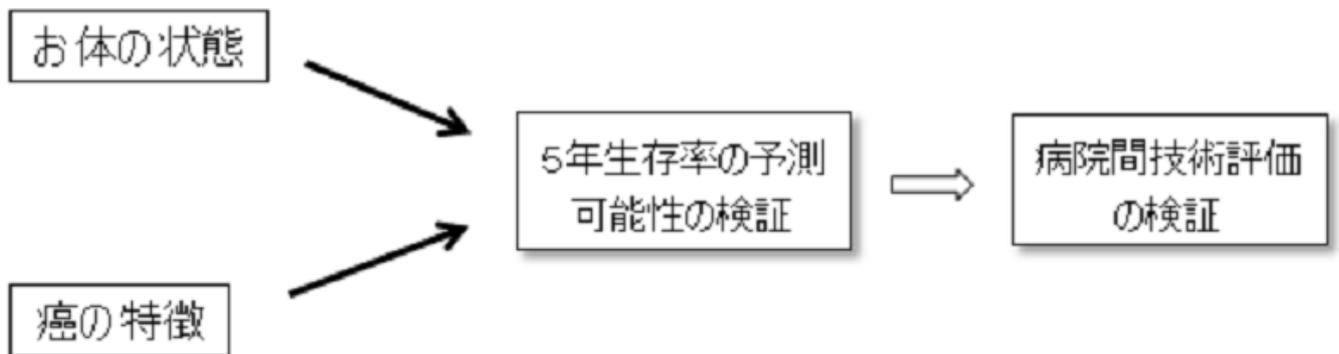
3. 胃癌切除例の予後調査ESAGC study

研究の概要

ESAGC studyは、全国の病院で、2007年4月から2009年3月までに胃癌にて切除手術を行った患者さんの術後生存期間を調査する研究です。

研究の目的

私たちは胃癌患者さんの年齢や持病の有無・検査データ（お体の状態）、癌の特徴から、手術後5年間生存する割合（5年生存率）を予測することが可能か検証します。同時に、この手法が病院間の医療技術水準の評価に役に立てることができるかを調べます。



調査する内容

患者さんの年齢や持病の有無・検査データ・癌の特徴と手術後の生存期間を調査します。患者さんの氏名・住所・生年月日など個人を特定する情報は調査しません。

対象となる患者さんの利益・不利益

この研究は、すでに手術を行った患者さんのデータをカルテなどから調べるだけです。対象となる患者さんに利益及び不利益はありません。先にも述べましたが、個人情報には調査しないので、個人情報が漏洩する心配はありません。

調査期間

2014年7月から2015年12月にかけて、参加病院の医師がカルテを調査します。

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。また、個々の患者さんのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

臨床研究部 芳賀克夫

問い合わせ先

治験センター 山下克也

TEL: 096-353-6501